☒深川の唄

帝キネ時代映畫

原作者　大佛次郎
脚色者　佐々木力
監督者　山下秀一
撮影者　和志田誠

――主要役割――

小染（深川藝吉）　松枝鶴子
新藏（其父）　大野三郎
善兵衛（伊勢屋主）　實川延松
丹七（其子）　吉頂寺光
お雜（其婚許）　泉蘭子
大和屋勘七（伊勢屋手代）　東良之助
堀川治右衛門（島洋家御納戸役）　片岡童十郎

解說――山下秀一氏の「浮世走馬燈」に次ぐ作品である。

寫眞――「深川の唄」帝キネ山下秀一作品。右より吉頂寺光と松枝鶴子。

略筋――意地と義理とに生きる深川つ子尾張屋小染は、一時は飛ぶ鳥も落す勢のあつた伊勢丹七が、手代であつた勘七の狂言に薩摩屋敷の出入りを差止められてから以來すつかり落魄したのを見て持前の俠氣を出すやうになつた。丹七の家には病床の父と、許婚のお雜が淋しく丹七の歸りを待つてゐた。小染には島津家御納戸役堀川治右衛門があつたが、いつしか丹七を慕ふやうになつた。勘七はお雜に不倫の戀を抱きお雜を得んと策略をしたが、それを知つた小染は父新藏と共に勘七の惡事を暴き、お雜と勘七との婚禮の日、小染は堀川を動かし丹七はお雜と目出度婚禮の式を擧げる事が出來た。そして勘七は新藏の計ひで水葬禮とならなければならなくなつた。かくて伊勢屋は再び榮えるやうになつた。